日本音楽学会第60回全国大会　プログラム
大会第1日目　10月24日（土）
発表40分（質疑10分含む）　移動5分

9:00	受付開始					
	301教室	302教室	401教室	402教室	501教室	L6（書評の部屋）
9:30	開会挨拶　日本音楽学会会長　礒山雅　（301教室）					
9:40	司会：樋口隆一	司会：阪井葉子	司会：水野みか子	司会：白石美雪	司会：稲田隆之	
	A-1　佐藤望　バロック期ドイツ・ルター派教会におけるオルガン奉献説教－音楽の神学的意味をめぐって	B-1　上野正章　大正期の日本における通信教育による西洋音楽の普及について－大日本家庭音楽会の活動を中心に	C-1　生島　美紀子　大澤壽人の創作活動と留学期の重要性	D-1　成田麗奈　1920年代パリにおけるシェーンベルク受容と「フランス六人組」評価との関係	E-1　川本牧子　沈黙の様式史：『パルジファル』から『ペレアス』へ	
10:25	A-2　江端伸昭　J. S. バッハの第1・第3年巻の教会カンタータの伝承問題	B-2　齋藤　桂　昭和初期の岐阜県における新民謡－新民謡雑誌の活動を中心に	C-2　竹内　直　早坂文雄の《交響的組曲「ユーカラ」》における音楽語法～メシアンの音楽語法との接点をめぐって～	D-2　山岸佳愛　シェーンベルクのオペラ《モーゼとアロン》におけるライトモティーフの二重構造	E-2　岡田安樹浩　《タンホイザー》の「歌合戦」における改訂と楽劇理論の実践－《ニーベルングの指環》創作との関連から	X-1　書評1 対象書籍：岡田暁生著『音楽の聴き方』
11:15	A-3　大崎滋生　J. S. Bachのカンタータ楽曲におけるコルノ・ダ・ティラルジ問題に端を発して	B-3　山口篤子　合唱競演会の功罪－近代日本の合唱受容における意義	C-3　清水慶彦　黛敏郎の音列技法と「カンパノロジー・エフェクト」	D-3　奥村京子　G・リゲティの《時計と雲》：ミニマルとクラスターの混合	E-3　重川真紀　シマノフスキのオペラ《ルッジェーロ王》における攻防－台本の成立史から見るイデアの形成－	書評者：吹上裕樹　10:25-11:25
11:55	昼休み（予約制でお弁当を販売いたします）					
13:00	A-4　西原　稔　J.N.フォルケルによるバッハの作品収集過程と所蔵作品	B-4　門奈由子　戦後の合唱運動における「うたごえ運動」－1950年代を中心に－	C-4　シュテファン・メンツェル 廣瀬量平の《尺八とオーケストラのための協奏曲》－東西の軋轢を活かして－	D-4　佐藤仁美　ジェルジ・リゲティ：《アヴァンチュール》および《ヌーヴェル・アヴァンチュール》の舞台用音楽作品としての重	E-4　和田ちはる　「ギプスをはずす」－ハンス・アイスラーのヘルダーリンへの作曲－	
13:45	S-1　シンポジウムⅠ 大学教育のなかで音楽学が果たしうる役割 コーディネータ：井口淳子 青柳いづみこ 椎名亮輔 谷正人 （終了15:45）		S-2　シンポジウムⅡ 第一次世界大戦と音楽史 コーディネータ：岡田暁生 小関隆（ゲスト：西洋史学会） 河本真理（ゲスト：美術史学会） 久保昭博（ゲスト：仏文学会） （終了15:45）			
16::00	総会（90分）（於：301教室）					
17:50	懇親会（19:50終了予定）（於：学生交流棟カフェ ＆レストラン「宙（sora）」地図②）					

大会第２日目　10月25日(日)

9:00	受付開始					
	301教室	302教室	401教室	402教室	501教室	L6(書評の部屋)
9:30	司会:前川陽郁 F-1　関本菜穂子 「長・短調」区分の成立過程における諸問題ーフランソワ・カンピオン(1685-1747)の理論書を例にー	司会:渡辺裕 G-1　中村真由子　宮内省式部職雇いの外国人音楽教師ーオーストリア人ヅブラウチッチを中心に	司会:広瀬大介 H-1　中村仁　1920年代のドイツ音楽における「新即物主義」について	司会:谷口文和 J-1　尾鼻　崇　ビデオゲーム音楽論ー『ドラゴンクエスト』シリーズを事例としてー	司会:石井明 K-1　芝池　昌美　サン＝テヴルモンのオペラ観再考	
10:15	F-2　伊藤　綾　歌曲における揺動強勢の処理法ーミニョンの「君よ知るや南の国」を例としてー	G-2　袴田麻祐子　浅草オペラを切り分ける　大正末～昭和初期の異文化受容をめぐる諸相	H-2　山口真季子　《三人娘の家Das Dreimäderlhaus》(1916)におけるシューベルト・イメージ	J-2　川本聡胤　音楽学的ポピュラー音楽研究の擁護ー間テクスト性の考察を通してー	K-2　園田　順子　17世紀中葉におけるライプツィヒの学生団体とJ. ローゼンミュラーの音楽ー新たな音楽ジャンルへの試	X-2　書評2 対象書籍:兵藤裕己著『琵琶法師』　書評者:藤田隆則 10:15-11:15終了
11:00	F-3　山上揚平　フランス近代音楽学成立期の音楽美学と実証科学〜『Revue philosophique de la France et de l'étranger(哲学評論)』掲載音楽記事を中心に	G-3　久保　絵里麻　鈴木鎮一と帝国音楽学校の群像ー昭和初期日本音楽教育界の一側面ー	H-3　秋吉康晴　聴衆の生産ー20世紀初頭Victorのオペラ・レコードと「音楽鑑賞」の大衆化	J-3　平間充子　古代日本の行幸における芸能ー場の論理から奏楽の脈絡を読む	K-3　大岩みどり　規範としての「演奏スタイル」ー フレスコバルディのトッカータにおけるパラドックスー	
11:40	昼休み　(この日は生協など学内の食堂は閉まっているので、お弁当を予約されることをお勧めします)					関連企画 ガムラン・アンサンブル「マルガサリ」＋三輪眞弘コンサート「4ビットガムラン『愛の讃歌』をめぐって」 12:10-12:50 ワークショップ 13:00-15:00 於:２１世紀懐徳堂多目的スタジオ、地図③
13:00	S-3 シンポジウム Ⅲ 音楽学と学位 コーディネータ:沼野雄司 川本聡胤 ヘルマン・ゴチェフスキ 関本菜穂子 (15:00終了)	S-4　シンポジウム Ⅳ 「ピアニスト」の誕生ー大正期のピアノ事情ー コーディネータ:津上智実 塩津洋子 藤本寛子 辻浩美 武石みどり (15:00終了)	司会:上野正章 L-1　安川智子　体系か概念か？19世紀「旋法」再考ーtonとmodeを手がかりに	司会:根岸一美 M-1　高野　茂　リピナーの『解放されたプロメテウス』とマーラーの初期交響曲	司会:村田千尋 N-1　岡村　真　ヨーゼフ・ヴァイグルとフランツ・シューベルトのミサ曲ー様式的相違の検証を通して	
13:45			L-2　朝山奈津子　ライプツィヒ・リーデル合唱団(1854創設)によるジョスカン作品の演奏	M-2　佐野旭司　シェーンベルクが観たマーラーの交響曲第9番ーシェーンベルクの未完の理論書に基づく考察	N-2　平井真希子　コプラ概念再考	
14:30			L-3　福島　睦美　1880-1936年のバルセロナにおいてピアノが果たした役割	M-3　西村　理　1920年代ヴィーンにおけるマーラーの交響曲受容	N-3　木内麻里子　19世紀フランスにおける単旋聖歌の復興運動と『単旋聖歌伴奏の理論と実践』(1857)	
15:15	S-5　シンポジウム Ⅴ アナリーゼ再考 Why analysis? コーディネータ:福中冬子 大西英明 キャシー・コックス 沼野雄司 (17:15終了)	S-6　シンポジウム　Ⅵ メンデルスゾーンの「イタリア」ードイツ人音楽家のイタリア旅行体験を多角的に検証する コーディネータ:小石かつら 河村英和(ゲスト:日本建築学会)　　山田高誌 吉田寛 (17:15終了)	司会:寺内直子 P-1　皆川達夫　原田裕司　キリシタン期の日本における「連禱(リタニエ)」をめぐる諸問題ー『洋楽渡来考』再々論	司会:横井雅子 Q-1　高松晃子　総体としての語りとヴァリアントの生成—英語圏のバラッド《酷き母》50異本の言葉と音楽	司会:寺田吉孝 R-1　増野亜子　ガムラン・バテルにおける演奏者の身体感覚	
16:00			江崎公子　『古事類苑』と小中村清矩	Q-2　上尾信也　トルバドゥール図像とミンネジンガー図像の可能性をめぐって	R-2　梶丸　岳　歌掛けにおける旋律と声調の関係ー中国貴州省の漢歌を事例に	
16:45			P-3　大久保真利子　邦楽調査掛における長唄の採譜調査ー嘱託員と採譜曲の実際ー	Q-3　寺本圭佑　18世紀以前のアイリッシュ・ハープ音楽≪荒野の貴婦人≫に関する資料研究ー失われたパトリック・マクドナルド手稿譜をめぐってー	R-3　山本美紀　絆を新たに結ぶ歌ー18世紀メソディスト運動における讃美歌と公共心ー	
17:30	閉会挨拶　第60回大会実行委員長　根岸一美　(301教室)					